



# 照明普及会だより

第22号  
平成7年4月

発行・社団法人照明学会・照明普及会

〒100 東京都千代田区有楽町1-7-1  
有楽町電気ビル 北館5F  
電話 (03) 3201-0645

## 和歌山県立近代美術館・博物館



美術館の夜景

### 照明の特長

外構照明は伝統建築のモチーフを多用し、行灯風の外灯、参道をイメージさせるアプローチライト、大庇の間接照明等で夜間の景観を一層際立たせている。

所在地：和歌山市吹上 1-14-14

### 施設の概要

和歌山城公園に隣接する旧和歌山大学教育学部跡地に和歌山県立近代美術館と博物館がオープンした。建物は現代的ななかに日本的な美意識を表現し、2層・3層の大きな庇は城郭建築の多層の庇を抽象し、和歌山城との調和を図っている。

### 照明施設概要

外構照明  
庇間接照明-----美術・博物館用蛍光灯 40W  
(電球色)  
外 灯-----美術・博物館用蛍光灯 40W  
(電球色)  
手摺り間接照明---豆球  
(資料提供 松下電工(株))

## 東海地区活動報告—照明講演会開催—

東海地区では、さる10月21日「『あかりの日』記念照明講演会」を開催した。講師には中京大学の成定教授と(株)東宮照明設計事務所の東宮洋美副所長をお招きし、それぞれ「道路と照明」「環境とあかり」という演題でご講演いただいた。

「道路と照明」では、道路や自動車の照明が人間の視覚や心理に及ぼす影響と夜間の交通安全との関係について説明をいただいた。



「成定氏の講演」

「環境とあかり」では、カラースライドで、東宮氏がこれまで手掛けられた様々な照明施設を紹介しつつ、氏の「環境とあかり」に寄せるコンセプトが説明され、約100名の参加者は熱心に聴講した。

来場者は照明学会員の他、人間工学会、色彩学会の関係者にも及び、「大変わかりやすい講演だった」と好評を博した。

今後も幅広い層の照明への関心を高めるようニーズにあった事業を企画していきたい。



「東宮氏の講演」

## E N E X '95東京電力・電気事業連合会ブースの紹介

恒例の省エネルギー月間を迎え、2月1日から5日までの5日間、(財)省エネルギーセンター主催の「E N E X '95 (第19回エネルギーの有効活用展)」が東京都千代田区北の丸公園・科学技術館で開催されました。

多数の来場者が詰めかけた東京電力・電気事業連合会の出展コーナーでは未利用エネルギー有効活用などの展示内容はもちろん展示装飾や展示会場運営に伴って出てくるゴミをゼロにしようとする試みが来場者はじめ他の出展者から大きな注目を集めました。

具体的には展示に必要なパネルをすべてなくしパネル60枚分の情報をすべてテレビ画面に入力。来場者はマウスを操作し好きな情報を入手できるようにしてあり、必要な資料は資料コーナーでコピー入手できます。

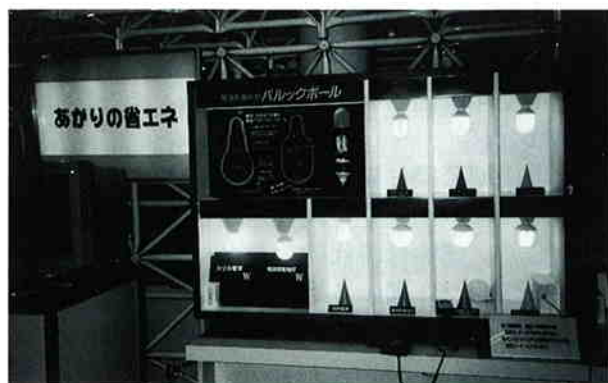
また、テーブルやカーペット、カウンターなどはすべてリースとし、やむを得ず出てくる紙類についても回収し古紙として再利用する等まさに省エネ展のテーマである「省資源・リサイクル」のコンセプトどおりのものとなります。

ブース内には家電機器の使い方による省エネ

比較実験や多機能ヒートポンプ、未利用エネルギーを利用した地域冷暖房などをテレビ画面や模型で紹介。中央のステージでは、大型スクリーンを使って、劇団の俳優による寸劇で未利用エネルギーの有効活用を楽しくご紹介しました。

もちろんあかりの省エネコーナーにもテレビ画面が設置され、立ち寄ったお客様は興味深く、マウスを操作したり、照度比較実験機器を御覧になりました。

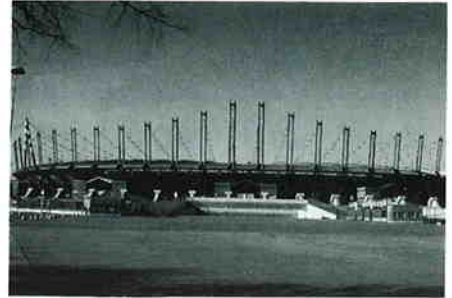
今回は特に展示が見易くわかりやすいと来場者からご好評をいただき、省資源・リサイクルと合わせて一石二鳥の結果となりました。



## ヨーロッパの球技場の現状



デレ・アルピスタジアム  
(イタリア・トリノ)  
陸上競技兼用スタジアム  
収容人員：70,000人



ジュゼッペ・メアツァスタジアム  
(イタリア・トリノ)  
サッカー専用スタジアム  
収容人員：85,000人



1993年5月10日チームによる日本で初めてのプロサッカーリーグ（Jリーグ）がスタートしました。爆発的な盛り上がりと人気を背景に、各球技場では毎試合満員状態が続き、Jリーグ元年としては大成功を収めました。

昨年はベルマーレ平塚とジュビロ磐田が、今年はセレッソ大阪と柏レイソルがJリーグ入りを果たし、今シーズンは14チームによって優勝が争われ、毎試合熱戦が期待されています。

照明設備もJリーグの開催に伴って、使用される球技場の明るさが200～500 lx程度であったものが一気に1500 lxの明るさまでレベルアップされました。照明の質も、カラーTV撮影や報道カメラ撮影に対応するばかりでなく、ハイビジョンTVまでを意識した照明計画が行われ、照明技術においても激動の年になってしまいました。

今回はサッカーの発祥地であるヨーロッパの施設について、そのいくつかをご紹介します。

ヨーロッパの近代サッカー（ヨーロッパではサッカーをフットボールと呼ぶ）は、1863年10月イングランドで設立されたThe FA（ザ・エフ・エイ イングランドフットボール協会）の規則が基となって世界に広がっていきました。1988年には世界で最初のプロフェッショナル・リーグがイングランドで誕生しています。

プロサッカー選手は地域にあるスポーツクラブという地域コミュニティに所属しなければなりません。試合はホーム（クラブが所属する街）とアウェー（相手チームの街）だけで行われます。そのため、サッカーは庶民のスポーツとして街対街の戦いで、熱狂的なサポーターが存在することになり、フーリガンとされています。

1989年FAカップの準優勝戦で、93名が圧死する事故が発生しました。そのため、サッカー競技場建設には、安全を確保するためのグリーンガイドが作成され、フーリガン対策を意識したものとなっています。

その内容は、

①すべてのスタジアムは全席指定の椅子席にすること。

②アクセス、人の流れの安全を確保すること。  
つまり観客、選手、審判、報道陣、VIP等の流れを区別すること。

③コミュニケーションシステム、すなわち、監視システムを完備すること。

つまり監視カメラによる常時場内監視は当然のことですが、非常事態に素早く対応できるよう、警備員や警察等との連絡が即座にできるシステムであること。

④一般的な施設(トイレ等)を充実すること。等となっています。

安全対策の一つとして、競技場では入口と出口がきちんと区別されています。



デン・スタジアムの入場口(イギリス・ロンドン) になっています。

出口は観客の一斉退場を確保するために、かなり広い扉がいくつも用意され、スムーズに人の流れが制御されて、5分以内に外へ出られるような設計になっています。



デン・スタジアムの退場口  
(イギリス・ロンドン)

フリーガン対策として、選手の入退場に対しても工夫が施されています。選手が入退場する際に、写真にあるようなチューブからピッチ(サッカーフィールド)に入ります。これも選手が観客席からの投石等による事故を防ぐための保護対策です。



選手入場風景

その他にはサッカー場がスポーツクラブ所有の社交場の要素もあって、必ず、貴賓室、レストラン、会議室、医務室、インタビュールーム並びに更衣室があります。面白いことに、選手の更衣室はホームチームとアウェイチームでは広さや設備の面で大きな違いがあります。

照明設備では、ほとんどの競技場が2KW級の高演色形光源を採用しており、FIFAガイド(国際サッカー協会ガイド)に規定された鉛直面照度(メインカメラ方向)1400lx以上を確保しています。

運用面では、サッカーの年間試合数が20~30試合程度のため、コンサートなどのイベント施設としての貸し出し、レストラン、会議室の貸し出しや年間契約の特別メンバー個室の貸し出し、ショップ等サッカー以外での収入が確保できるよう工夫がなされているのが現状のようです。

なお、サッカーシーズンは8月中旬から翌年の5月中旬までの期間であることから、冬場対策としてほとんどのサッカー場には観覧席の上に屋根が掛けられています。

以上、ヨーロッパの球技場の施設について若干ご紹介しましたが、日本も2002年のワールドカップ開催の誘致に向けて政府をはじめ官民一体となって盛り上がってきています。サッカーの先進国ヨーロッパの施設をお手本として、日本独自のハード・ソフト面を駆使し、完成度の高い施設が出来ることを期待したいものです。

(資料提供 小糸工業株)